



ロボット製作キットの部品を確認する生徒たち

ロボコン挑戦 本格始動 松本秀峰有志 課外授業で

松本秀峰中等教育学
校は本年度から、国内
外のロボットコンテス
ト（ロボコン）大会へ

の挑戦を通じて、生徒有志がプログラミング

大3時間取り組む。本年度導入したプロック玩具を使う自律型ロボット製作キットを用い、3人一組のチームで動作に必要なログ

が開封前のキット計15セットを受け取り、部品整理などをした。1年・ルイス輝南君(きなん)
(12)＝岡谷市＝は「やるからには仲間と

ラミングを学びながら、ロボットを製作・制御する。8月から予選が始まる国際的なロボコン大会への出場が当面の目標だ。

協力して積極的に取り組みたい」と目を輝かせ、プロジェクトリーダーの4年・小松大祐君(16)は「好きなことを学べうれしい。授業が学校の新たな伝統にもなれば」と願った。

かつて大手ゲーム会社イチカイのゲームクリエイターだった瀬川伸教は「失敗しつつ何度も挑戦する」ことの諭(39)だ。

学校の新たな伝統にも
なれば」と願つた。
(小岩井貴之)

「トライ＆エラリー」を
社会に出る前から経験
できるのも大事なこと
だ。時間をかけて過程

を楽しみ学んでほしい

い」と願う

1～5年生の有志45人